

◆平成29年度 美波町地域づくりインターン

素敵な美波町とのご縁に感謝して

龍谷大学社会学部

コミュニケーションマネジメント学科 3年

松本彩見

一、はじめに

私は龍谷大学社会学部コミュニケーションマネジメント学科の松本彩見と申します。大学では、社会学の観点から政策ではなく人の力で進める地域づくりについて学んでいます。1年生の頃から毎年地域に出て学ばせていただいております。今年も美波町で2週間お世話になりました。

私がこのインターン事業に応募したきっかけは、昨年徳島県の別の町で学ばせていただいたことで徳島県に興味を持ち、今年も徳島県で学びたいと思ったからです。そして、この町の名前にもたいへん心惹かれました。「美しい波」と書いて「美波町」。一体どのような町なのだろうと想像を膨らませてしまいました。美波町のことを調べているとうみがめが上陸・産卵するということがわかりました。今まで

海とは縁がなかった私にとって心惹かれる町であったため、すぐに応募を決意しました。

二、インターン中の体験について

インターン中には町内で行われている取り組みやイベントに同行させていただいたり、産業や観光に関する施設での体験をさせていただいたり、たいへん貴重な経験をさせていただきました。

まず町内で行われている取り組みやイベントでは、キッズフェスティバルで児童のみなさんと一緒に昼食を作ったり勉強をしたりしました。地域の方と親しげに会話をする児童のみなさんの姿を見ながら、地域で子どもたちを見守り育てるといふ面からも素晴らしいイベントだと感じました。また、道の駅でのまけまけマルシェの手伝いもさせて



いただきましたが、行政が担う仕事の幅広さに驚きました。そして、乙姫米の稲刈り体験もさせていただきました。田植えから稲刈りまでを体験できるそうで、生産者の思いを知るといふ意味でもよい機会であると思いました。乙姫米というブランド米があるということはこの体験で初めて知りましたが、稲刈りのあとでいただいたご飯はとても美味しかったです。

次に産業や観光に関する施設での体験では、道の駅のレジの補助をさせていただきました。そのなかで道の駅について感じたことや気づいたこ

とについては後述させていただきます。そして、日和佐漁協ではタコの出荷の手伝いという人生で初めての経験をさせていただきました。資源管理型の漁業をされているとのこと、今現在の漁獲量だけでなく将来の漁獲量まで見据えていらつしやるのだと知りました。日和佐うみがめ博物館カレッタではうみがめの甲羅洗いをさせていただきました。こちらも人生で初めての体験でした。ただ単に来館者さんにうみがめを見てもらう、うみがめに触れてもらうというだけではなく、触れ合うイベントを通してうみがめのことをちゃんと知ってもらい、「うみがめが来るまち」として保護に繋がっていくとされているのだと感じました。また、美波町観光協会では、地域デ

イレクターの取り組みにおいて実際にPR番組の撮影に同行させていただきました。元々大学の研究テーマとして地域ブランドの向上についても興味を持っていました。現場を見学させていただけたことは今後の学びに繋がる貴重な経験となりました。最後に、観光ボランティアガイド会日和佐では町内をじっくりと案内していただきました。薬王寺や桜町通り・厄除け橋・あわ

えなど、この町に長年いらつしやる方だからこそできるガイドだと思いました。ただ説明を行うだけではなく、クイズ形式や自身の情報と絡めた話題でのガイドをしてください、数時間の町内案内があつという間に感じられました。この町のことを知ってほしい・楽しんで観光してほしいという強い思いを感じました。

このインターン体験中はまちづくりについて考えた2週間でもありました。私が感じたことや考えたことをふまえ、離町前日に行われたインターン体験発表会において美波町にいくつかの提案をさせていただきました。

三、美波町について

まず、先述した道の駅ひわさについてですが、私が気づいたのは(1)直売所の野菜売り場や惣菜売り場に道の駅らしさが少ない。(2)道の駅ひわさの名物となるような商品をつくるのはどうか。(3)道の駅の利用客は飲食店を欲しているのではないかと。この3つの点についてです。(1)の直売所の売り場に関しては、簡単にいうと売り場に生産者の顔がないということです。具体的な案として、生産者や生産地に関するストーリーを記載した